

事例報告Ⅱ「只野原3号遺跡（庄原市高野町）の発掘調査」

埋蔵文化財調査室 事業調整監 青山 透

只野原3号遺跡の発掘調査報告をさせていただきます。

中国山地の旧石器文化を考えるということで、庄原市高野町にある只野原3号遺跡ですが、高野町のやや南西部の下門田というところにあります。【スライド1】の写真を見ていただきますと、そこのほぼ中央部を白く円形に抜いたところがあります。そこが只野原3号遺跡の位置になります。三次から車で約50分ぐらいかかるようなところで、島根県の県境に近いところになります。

スライドにありますように、高野町内を東から西に流れる神野瀬川がありますが、この川が河岸段丘をつくりながら西方にある高暮ダムの方方向に流れていくのですが、只野原3号遺跡は河岸段丘上に残された遺跡です。

この発掘調査の契機になりましたのは、中国横断自動車道尾道松江線

という、三次から高野を通して、島根県へ抜ける道路が計画され、その事前の試掘調



【スライド1】只野原3号遺跡の位置

査によって発見され、発掘調査が必要な遺跡であるとして調査を実施しました。

調査は、平成21・22年度の2回に分けて行っていました。第1次調査は、【スライド2】を見ていただければVの字状の調査範囲の上に、第1次調査、第2次調査と書いてありますが、第1次調査のほうは2,500㎡、それから第2次



【スライド2】只野原3号遺跡の地形

調査は、5,000㎡ほどを2年に分けて発掘調査しました。この只野原3号遺跡は、路線内の場所を本発掘の前に試掘調査を行いましたところ、旧石器時代の遺跡があるということで、発掘調査になりました。

第1次調査は、文化層が3面、第2次調査では文化層4面を確認しました。只野原3号遺跡文化層0というのが、この遺跡では一番新しい文化層になります。0をつけたのは第1次調査では、確認されていないので、第2次調査で文化層0としました。ここでは、古墳時代から弥生時代の遺構を確認しております。次に只野原3号遺跡文化層1は縄文時代です。時期は細く限定できなかったのですが、縄文時代でも大変古い草創期の遺物とか、それから早期、前期、それから後期までの土器片が出土しております。

次に文化層2、文化層3というように書いてありますが、今日のテーマの旧石器の文化層は、文化層2・3になります。文化層1から順によって説明したいと思います。

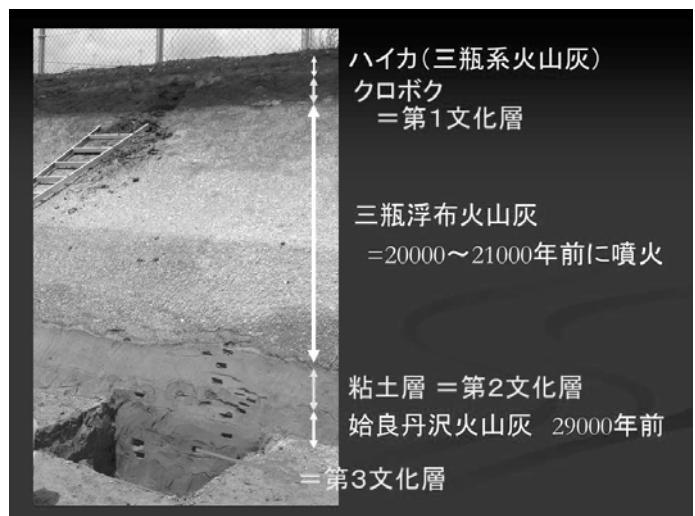
資料にはこの只野原3号遺跡の文化層1の縄文時代の資料もちょっと載せております。これは、文化層2、3という旧石器時代の遺構と遺物に関連することが多いこともありまして、その文化層1からお話をしたいと思います。

【スライド3】で火山灰の堆積状況（模式図）を作っていますが、上のほうから三瓶大平山とか三瓶角井、鬼界アカホヤ火山灰、三瓶浮布火山灰とかいう文字が見えま

					只野原3号遺跡文化層 0	古墳～弥生
3700	～	3800	前	三瓶大平山 火山灰	Soh	
4800	～	5000	前	三瓶角井 火山灰	Stn	
7300	～	7300	前	鬼界アカホヤ 火山灰	K-Ah	只野原3号遺跡文化層 1 縄文
20000	～	21000	前	三瓶浮布 火山灰	SUP	
24000	～	25000		三瓶小田 火山灰	Sod	只野原3号遺跡文化層 2 旧石器
28000	～	30000	前	始良丹沢 火山灰	AT	
	～			高野 火山灰	Tk	只野原3号遺跡文化層 3 旧石器
50000	～	50000	前	三瓶池田 火山灰	SI	

【スライド3】只野原3号遺跡の火山灰堆積状況

すが、只野原3号遺跡は、非常に火山灰が良好に堆積している遺跡です。先ほど、山田の話にもありましたように、下のほうから言えば、三瓶池田火山灰、それから年代を書いていないんですが、高野火山灰、高野テフラと呼ばれるもの、その上に始良丹沢火山灰、これらの火山灰は時期が検証されております。このことは、資料の一番後ろに、日本の旧石器時代の年代についてということで、補足的に資料をつけております。



【スライド4】只野原遺跡の火山灰堆積状況

遺物は時期を特定するのに、火山灰の上から出たら、その火山灰の年代より当然新しい。火山灰より下から出れば、火山灰の年代より古いということで、旧石器時代の年代推定が行われています。

只野原3号遺跡では、ここで言う良好な火山灰が、下のほうから言わせてもらいますと、三瓶山が約10万年前に爆発して、風向きにもよるんでしょうけど、高野地方にも随分降り積もっております。そういったことで、下のほうから三瓶池田火山灰を確

認し、それから始良丹沢火山灰、これは現状での最新分析データによると、2万9,000年前という年代が出ております。三瓶浮布火山灰、これが2万1,000年前。それから、その上にちょっと書いてあります鬼界アカホヤ火山灰、これは7,300年ぐらい前というように、幅はありますが、火山灰の時期が科学分析の結果、数字が出ています。

只野原3号遺跡の文化層1、縄文時代の文化層では、鬼界アカホヤ火山灰を混じりながらの遺構面といいますか、第1次調査区では、範囲は狭いのですが、2,500m²の中でも第1次調査区のほぼ中央部ぐらいに、ハンマーストーンとか縄文土器の集中部が認められました。あとは、散発的に円形土坑などがあったのですが、出土した遺物は、

【スライド5】のように、遺物集中部のハンマーストーンは60本ぐらい出ております。

それから、第2調査区においては、中国山地では初めてではないかと考えられる隆起線文土器が出ています。



【スライド5】縄文時代の出土遺物

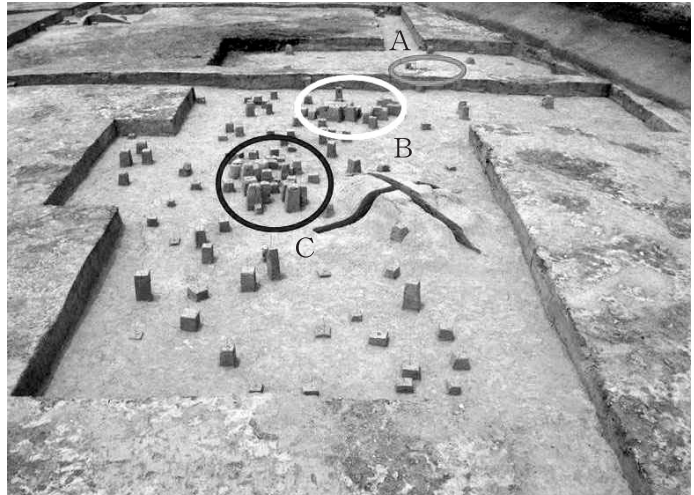
それから【スライド5】の槍先形尖頭器。これは第1次調査で遺物集中部付近から検出されたものですが、只野原3号遺跡の文化層1の縄文時代の草創期の少し古いものかもしれません。

文化層1の調査を終了し、文化層2を掘りました。この文化層の上部には三瓶浮布火山灰という2万年前に降り積もった火山灰が、150cm程度積っておりまして、それを全部除きまして、その除いたところに文化層2がありました。そこを掘っていきますと、第1次調査区では、A・B・C【スライド6】と書いてありますが、焼けた石、先ほど山田のところでも比較的大きな石がたくさん固まって出てきたというお話がありましたけど、A・B・Cのあたりに、特にAのところなんですが、焼けた石が出てきました。この層位が、三瓶浮布火山灰を取り除いた次の始良火山灰より上の面だと

ということで、始良丹沢火山灰が2万9,000年頃だとしますと、約2万年前後といたしますか。2万年より古く、2万9,000年より新しい旧石器時代の遺構、生活の跡だということになります。このA・B・CのBのところでは、炭化物の広がりが見つかりました。Cのところも炭化物とか焼けた石が少し出ています。【スライド7】はA・B・Cをちょっと拡大している写真です。これらの焼けた石などは接合しております。焼けて飛散したのか、あるいは人為的に移動したのものもあると思いますが、焼けた石などが後から接合して一つの石になっています。第1次調査区のほうでは、そういった生活の跡が見られました。

第2次調査区のほうでは、この文化層2においては、そこに書いてありますナイフ形石器、第1次調査区より倍ほどの面積を掘った

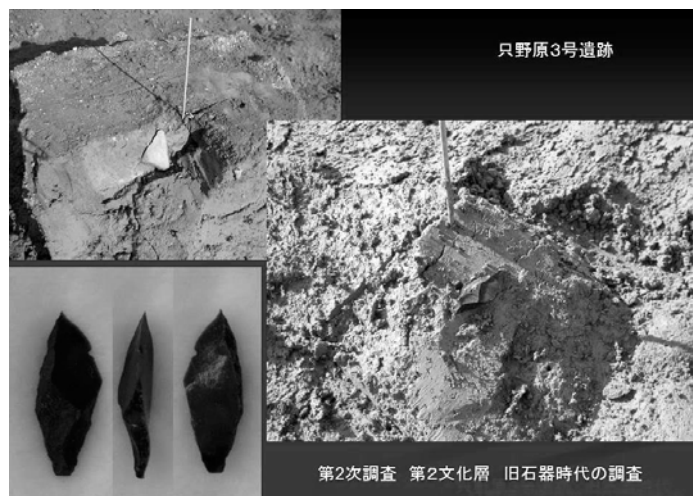
のですが、ナイフ形石器1点、これは黒曜石で、本日、展示もしておりますけど、随分形のいい石器が1点、ぽつんと出てきました【スライド8】。右側に剥片がありま



【スライド6】第2文化層遺構面



【スライド7】火を受けた礫群



【スライド8】文化層2の調査状況

すけど、流紋岩製の剥片が1点出てきました。

第2次調査区は5,000m²ほどありますが、集中的に掘ったのは、台形状の破線部分を集中的に掘りました。どうしてここだけしか掘らなかったかということは、第2次調査区のところにLとか逆L字状

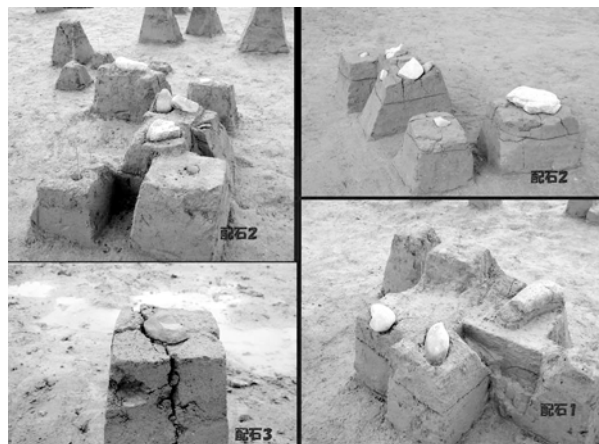


【スライド9】文化層2の調査状況

に線を引っ張っているのですが、この部分を試掘しながら、石器・礫の出土状況はどうだったんだろうかというのを方眼に沿って、ラインに沿って数十箇所調査をしました。その結果、その等高線の動きでも想像できるかと思うのですが、第1次調査区が一番高いところ丘陵部から、標高差は1mもないのですが、丘陵が緩やかに第2次調査区の方に向かって、ちょっと高めなところだったりする箇所と数十箇所の試掘調査の結果を勘案しての500m²を選んで、集中的に掘ったということです。

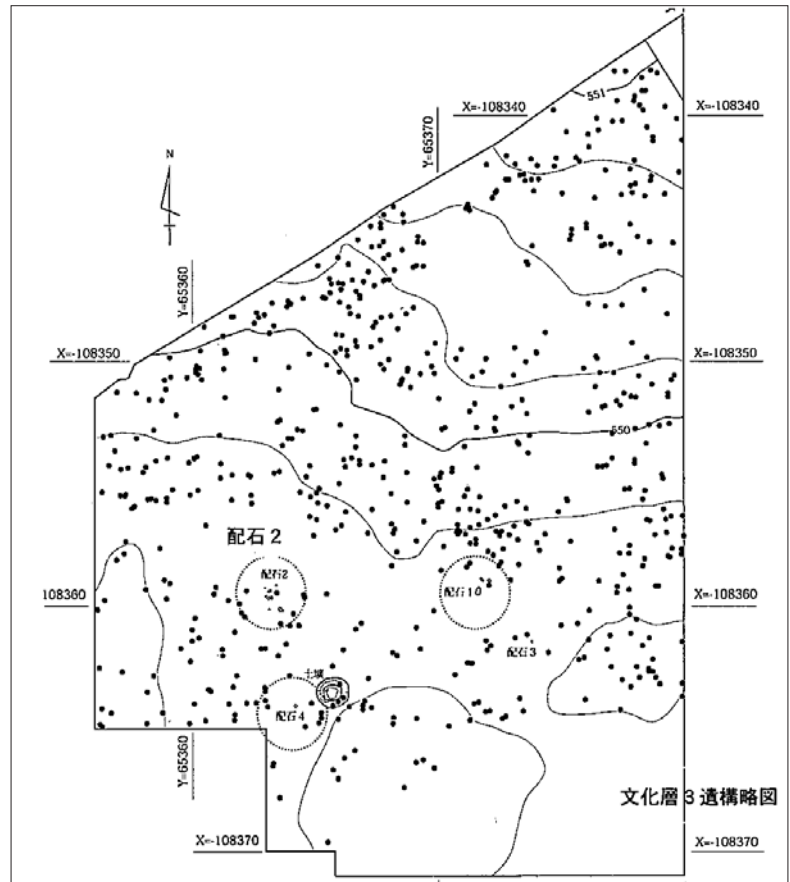
その文化層2【スライド9】の調査を終わりにして、文化層3、始良丹沢火山灰が2万9,000年前に降り積もった火山灰を取り除きながら、三瓶池田火山灰の上の粘土層まで下げていったのが、【スライド11】の図面になります。第1次調査区では、余り顕著な遺構というか石とかは出てきていないのですが、第2次調査区文化層3では、そこにちょっと配石2【スライド10】というふうにちょっと大きく書いているのです

が、この部分、ちょっと訂正しておきたいのですが、資料の19ページ、文章の第2次調査ではというところの配石には4個の石と、これはいいのですが、次にまた配石2と書いているのですが、配石1の間違いです。それから、またその下に配石3と書いてある部分ですが、この配



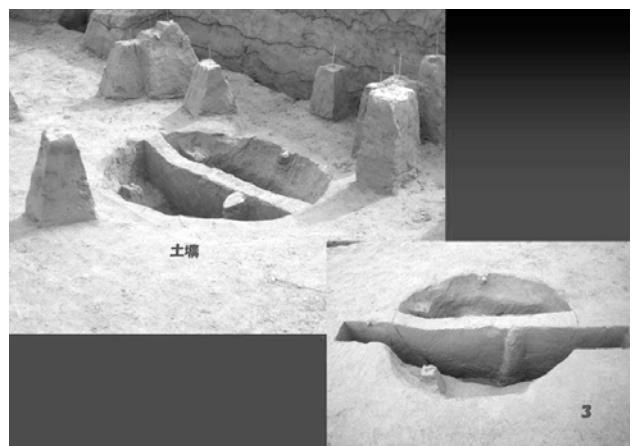
【スライド10】文化層3（A T下）

石 3 というのは、図面で言えば配石 4 のことですので、訂正させていただきたいと思います。【スライド11】の黒い点は自然の礫と思われるもの750点余り、それから配石 2 のところは、約30cm ぐらいの塊の石などが出てきまして、その石の間に打製石斧が出土しています。それから配石 1 や 3 では、高さが揃っている関係上、配石 2 や 3・4 のあた



【スライド11】文化層3の遺構図

りはどうも同じ生活面を形成していたのではないかと思われる状況がわかりました。この配石の状況は始良丹沢火山灰より下の層で出てきましたので、後期旧石器時代でも前半期の人の生活の跡ではないかということが推定できます。そこに書いてあります土坑【ス



【スライド12】土坑の検出状況

ライド12】，これは調査時から今まで概報的に報告してきたもののなかで後期旧石器時代でも古い土坑ではないか言われていますが，この土坑の中の土を分析しましたところ，この土坑の中には，始良丹沢火山灰が入っているということがわかりました。この土坑はやはり始良丹沢火山灰降下の時期より新しいということで，文化層 1 の土坑ではないかと認識しています。

只野原3号遺跡の発掘調査の成果ですが、現在、報告書を作成していますので、縄文時代の話をしておきます。【スライド13】

の円形土坑は縄文時代のものです。これが、第2次調査区で出てきた縄文時代の遺構で、連結土坑と呼ばれるものに非常によく似たものですがこちら側に穴がありまして、ここに煙突状のものがあります。これが何かちょっと調査中にはよくわからなかったんですが、鹿児島県の上野原遺跡では、たくさん見つかっていて縄文時代の早期らしい。どうも燻製をつくるような穴ではではなかったかと推定されています。そういったものが、只野原3号遺跡でも2基出ております。



【スライド13】縄文時代の連結土坑



【スライド14】隆起線紋土器

【スライド14】ですが、これは草創期

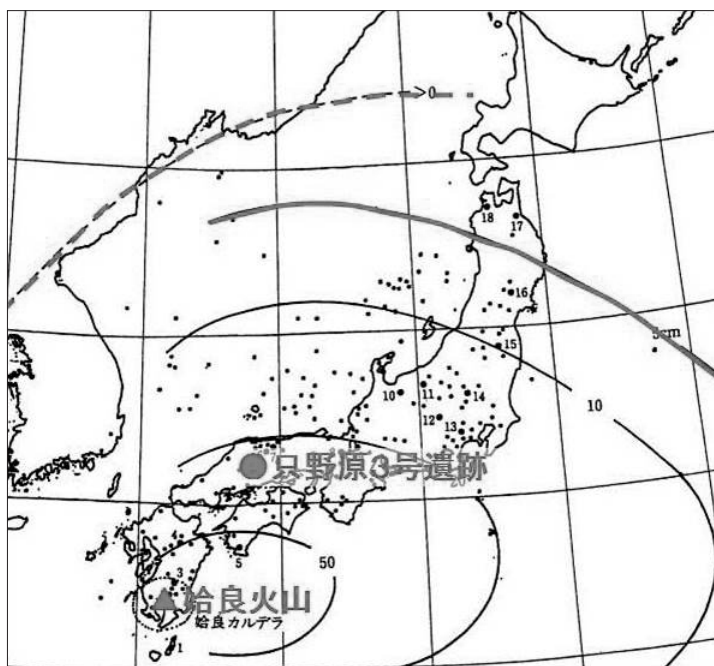
の隆起線紋土器です。隆起線紋土器の出土は中国山地では初めてではないかといわれています。類例は、長崎県の泉福寺洞窟遺跡などで出土しています。

次の文化層2ですけど、三瓶山と直線距離にして只野原3号遺跡から約40kmと近いので、風向きもあったとは思いますが、三瓶浮布火山灰は随分積っております。1.5mほど、これを取り除いて文化層2を調査しました。遺物集中部、焼けた石、炭などが見つかります。現在、報告書を作成している担当者は、炉跡の可能性があるのでないかと言っています。明らかに火を受けておりますから、人の生活の跡ということがわかります。

それから、第2調査区のほうですけど、単発的に黒曜石のナイフ形石器が出ています。これは剥片ですけど、これは資料にもありますが、何かぽつんと出てきたので、

どうもいのししでも突き刺したのかなとか。それが落ちて、ここに出てきたような状況なのかなという人もおりましたけど。随分きれいな黒曜石製のナイフ形石器です。産地としては隠岐産です。

【スライド15】ですが、始良丹沢火山灰、時代を決められる火山灰として一番有名なものです。先ほどの文化層2がこの上なんです、続いて文化層3は、この下を掘っていきました。始良丹沢火山灰というのは、鹿児島から2万9,000年前、先ほど山田の話にもありましたように日本全国降り積もっているということです。特に、只野原3号遺跡では、約15cmの始良丹沢火山灰が堆積している。それを除去して500㎡を集中的に掘りましたところ、この部分、配石1や配石2という名称をつけていますが、特に集中した箇所が認められました。



【スライド15】始良火山灰の降下した範囲

それから、これは当時の生活を考える上で、報告したハンマーストーンなどで石器をつ

くったり、獣の皮をなめしたりしたのではないかと考えられます。

当時の生活については、本日午後の藤野先生の基調講演Ⅰ「旧石器時代の環境と暮らし」のなかで、詳しくお話しがあると思いますので、省略しますが、動物等を求めて、テント生活をしながら移動していたのではないかと考えられます。

まとめではないのですが、一つだけ言いたいのが、【スライド3】で時期の数字が入っていない「高野テフラ」という火山灰があります。只野原3号遺跡も、火山灰分析をやっています。その結果、三瓶池田火山灰より上、それから始良丹沢火山灰の間で、どうも高野テフラと呼ばれる新しい火山灰も見つかっています。この火山灰の分

析が進めば、時期も特定され、高野テフラが時代決定する火山灰の一つになっていくのではないかと考えられます。発掘調査もこの地域に限らず類例も増えるとは思っております。

以上で終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました

出典一覧

スライド15：町田 洋・新井房夫『火山灰マトウス 日本列島とその周辺』1992年 東京大学出版会 より作成

上記以外のスライドは、財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（23）只野原1号遺跡 只野原2号遺跡 只野原3号遺跡』2013年 の写真図版をもとに、発表者が作成した。